

フィルムになった風景

vol.9

雄大な自然の中で凜と立つ
一本の大木が印象的な

「北杜市」



ヤマナシの木

北杜市

映画『道～白磁の人～』は、江宮隆之の小説『白磁の人』を映画化したものです。

主人公の浅川巧^{たくみ}は実在の人物で、山梨県北杜市は巧の生まれ故郷です。山梨県立農林学校で学んだ後、営林署に勤務していましたが、1914年、23歳の時に兄、伯教^{のりたか}を追って朝鮮半島に渡りました。林業技師として荒廃した山々の緑化に奔走するかたわら、兄の影響で白磁に代表される朝鮮陶磁に魅せられ、名著『朝鮮陶磁名考』を書き残すなど、朝鮮の文化を日本に紹介しています。



『道～白磁の人～』の撮影風景。巧の妻の葬列シーン

巧は、40歳の若さで朝鮮の地で亡くなりますが、お墓は今もソウル市忘憂里（マンウリ）にあり、彼を慕う韓国の人々によって大切に守られています。

映画制作は日韓共同スタッフにより行われ、韓国ではオープンセットを使用し、約1ヶ月に渡るロケが敢行されました。そのような内容が評価され、外国映画としては初めてとなるKOFIC（韓国映画振興委員会）の支援を受けました。

北杜市は、巧が林業振興を行っていた韓国・抱川市（ポチョン市）と姉妹都市となり、中学生のホームステイや文化交流など友好を深めています。そのような縁もあって、北杜市でロケが行われました。

映画の冒頭で映し出されたのは、巧が山を緑に戻すため朝鮮半島に渡る決意をし、別れを告げる一本の大木。これは北杜市の清里高原を象徴する「ヤマナシ」の木です。広々とした草原に凜と立つ姿は、巧の決意を象徴しているかのようであり、雄大な富士山、八ヶ岳の眺望とともに豊かな自然を感じさせる映像となっています。

巧の妻の葬列シーンも、エキストラの皆様や地元のお寺の方などのご協力を得て撮影されました。夏の暑い時期にもかかわらず、大正時代の風習を再現するため、エキストラの皆様には紋付はかまや着物を着てもらい、のぼり旗を先頭に八ヶ岳を背景に田舎道を歩いていただきました。

また、撮影のため洋館や古民家等の由緒ある貴重な建物を提供していただきました。郷土の偉人の半生を描く映画の製作に関われ、また、地元の方と一緒に作り上げた作品として印象的な映画となっています。

北杜市では、この他にも『いま、会いに行きます』『西の魔女が死んだ』等多く映画の撮影が行われています。ぜひ「1000 m 天空リゾート・北杜市」へお越しください。（執筆／北杜市産業観光部観光・商工課 中田正仁）

INFO

「道～白磁の人～」

監督：高橋伴明
脚本：林民夫
出演：吉沢悠、ベ・スピン
公開：2012年6月
時間：119分



写真提供：「道～白磁の人～」フィルムパートナーズ